

EBPの探究 Exploring Evidence-based Practice

担当教員	松本 勝、紺家 千津子、幅 大二郎											
実務経験	病院勤務経験のある教員が担当している。											
開講年次	4年次後期		単位数		1		授業形態		講義			
必修・選択	選択		時間数		15							
該当ディグローバル	(1)		(2)		(3)		(4)	○	(5)		(6)	◎
Keywords	科学的根拠の検索、看護技術、臨床適応、ICT・IoT、看護理工学											
学習目的・目標	<p>目的: 科学的根拠ある最善なケアを実践するための知見の検索や、対象への適応の検討の方法、EBPのケア技術について学習する。さらに、EBP(Evidence-based Practice)を効果的に実践で活用するための方策を考える。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的根拠あるケアの知見を得るための検索方法を理解する。 2. 知見の臨床活用例を理解する。 3. 知見の臨床適応について倫理的な視点も含め考える。 4. ICT・IoTを活用した最新知見や社会の動向より今後のケアの展望を考える。 											

授業計画・内容

回	内容
1	EBPの意義と科学的な知見の検索方法 ・臨床疑問(PICO、PECO)の作成 ・EBPに適した検索サイト
2	倫理的な視点を含めた対象の適応への吟味 ・ガイドライン ・論文の吟味、経済的吟味 ・倫理的な視点を含めた対象の適応の判断
3-4	EBP実践の理解① ・スキンケア:健常な皮膚の維持、医療用品による皮膚障害の予防
5-6	EBP実践の理解② ・排泄ケア:排尿の自立、便秘の管理
7	知見の臨床適応の判断(事例を通して) ・適応の判断と導入時の留意点
8	今後のケアの展望 ・Society 5.0 ・ICT/IoT活用のケア まとめ
教科書	授業時に資料を配布する
参考図書等	医学・看護論文を読み解いて臨床に活かす方法 Evidence-based Medicine/Nursingのすべて 新興医学出版社 EBMの道具箱 中山書店
評価指標	授業時間の2/3以上の出席をもとに、授業内容を理解した上でのレポート内容の評価80% 授業中のディスカッションの参画20%
関連科目	看護の基本・看護援助の方法・看護の実践の全科目、研究方法論など
教員から学生へのメッセージ	患者様や医療メンバーから信頼される看護職者として活動するためには、最良な実践を提供することは必要条件です。 その基盤となるEBPの活用方法を学びましょう。